

箱根ステップアップキャンプ・モニターキャンプ 実施報告書

実施日 2023年12月16日(土)~17日(日)
1泊2日

主催

ユニバーサル・ピア

箱根ステップアップキャンプ実行委員会

ユニバーサル・ピア

代表 新井 丈晴

運営事務局

池谷 裕次

薄井 貴之

1 はじめに

当団体代表の新井は、高校生のころから、「障がいがあっても、親や学校の先生に頼らず自分たちで考えて活動していこう」と仲間と団体を設立し、自分たちで考え行動し必要に応じて自分たちでボランティアを集めて活動していました。その一方で、私は、身体的と知的に障がい重い仲間たちの支援にも興味を持ち始めました。

その経緯で、市民活動に興味を持ち始め、以下のような課題を考えました。

- (1) 障がいがあるユース世代が社会に出て自分たちで考えて行動することが難しい。
- (2) 重い障がいがある人たちへの周囲の理解が少ない。障がい者理解が必要だ。
- (3) そうした重い障がいがある人たちも様々な社会経験や親離れの機会が必要である。

仲間との活動において方向性の違いを感じ、新たに「ユニバーサル・ピア」を設立しました。私たちは自分たちだけでなく社会に向けても活動していくことを考え、福祉教育活動などを行ってきました。社会を見つめると、やまゆり事件などの障がい者差別に関する出来事や問題が多発しており、私たち障がい者に対する理解を深める場が不足していることを感じました。

そんな中、友人である池谷から星槎大学箱根キャンパス・流星館の情報を得ました。実際に見学に行き、そのバリアフリー環境の優れた点に感銘を受け、「この施設を使って何かできないか」との考えから、「箱根ステップアップキャンプ事業」を始めるに至りました。

頭に、「私たちのビジョン(事業目的)」として示す趣旨のキャンプ事業の構想を練り始めました。池谷と薄井にアイデアを話し合った中で、『フレンドシップキャンプ』を通じて知り合った古山と西村、そして小田原・箱根地域で作業療法士をしている初鹿に協力を仰ぐことにしました。

6人のメンバーで私の思いを共有し、事業実施前に実際に流星館に泊ってみようという提案から、今回のモニターキャンプの実施に至りました。初鹿が実行委員会に加わることで、箱根町社会福祉協議会様、箱根町観光協会(DMO)様、そして箱根在住車椅子ユーザーの武藤様との連携が生まれました。

宿泊中に感じた流星館の魅力や箱根のバリアフリーな環境、障がいを持つ人たちが箱根を楽しむための整備に触れ、ここならば私たちが思い描くキャンプは実現できると確信しました。そして私たちは、この箱根でのキャンプ事業を通じて、「障がいがある人たちに箱根を楽しんでもらいたい」「障がいがある人たちに優しい箱根」をアピールしていきたいと考えています。

このモニターキャンプの報告を以下に示します。

2 私たちのビジョン（事業目的）

①障がいがあるユース世代が社会に出る力を身につけられる場を

障がいがあるユース世代が社会で生活する準備をする重要な時期に、計画力やコミュニケーション能力などの必須スキルを身につけ、困ることなく自立できるよう支援します。障がい当事者とボランティアからなる「実行委員会」を組織し、自らが「企画」に参加できる場を提供します。

②障がいがある人と実際に関わる場を

障がい福祉を学ぶ学生や、障がいとは無縁の学生や社会人に対し、障がいがある当事者と交流できる場を提供し、新たな気づきや発見が得られる環境を提供します。

③家庭で介護されている家族の皆さんに「箱根」でゆったりとした時間を（レスパイト）

日頃、障がいがあるお子さんの介護に追われている家族の方々に、気軽に気を休められる場を提供します。お子様を私たちやボランティアに預け、日本有数の温泉地である箱根で、観光や温泉をゆっくり楽しむ時間をお過ごしいただければと考えます。

3 実施概要

3-1 企画名・目的

企画名	箱根ステップアップキャンプ・モニターキャンプ
目的	実地踏査を行い、事業のプログラム計画・運営に生かす。 1 流星館に宿泊し、生活面のプログラム計画・運営に活かす。 2 箱根地域の観光施設・交通機関を利用し、移動及びプログラム進行の計画・運営に生かす。 3 運営メンバー、及び協力団体での交流の場とし、理念や思いの共有、及び協力体制の構築をする。

3-2 実施日・実施場所

開催日	2023年12月16日（土）～12月17日（日） 1泊2日
開催場所	星槎大学箱根キャンパス・流星館 箱根観光地

3-3 実施スケジュール

*1日目 12月16日 土曜日		*2日目 12月17日 日曜日	
時刻	行程	時刻	行程
13時	箱根湯本駅 集合	7時	朝食
25分	箱根登山鉄道 強羅行き	8時	施設見学
14時1分	彫刻の森駅着	9時	流星館出発
14時30分	彫刻の森美術館（見学）		（この日の予定は前日の夜 行き場所を決定 後述）
16時35分	彫刻の森美術館出発		箱根町役場・食堂にて
16時55分	強羅駅でバスに乗車		振り返り
17時15分	流星館に到着	15時	箱根湯本駅にて解散
18時	夕食		
19時	入浴	16時	
20時	交流会		

3-4 参加者

〈箱根ステップアップキャンプ事務局・実行委員会〉

新井 丈晴 ・「ユニバーサル・ピア」代表・身障者ディスクゴルファー

池谷 裕次 ・元小学校教諭 ・温泉旅館みたけ取締役

・キャンプインストラクター/キャンプディレクター2級

薄井 貴之 ・元 HIS ユニバーサルツーリズムデスクスタッフ ・社会福祉士

初鹿 真樹 ・作業療法士

西村 悠麻 ・障がい当事者

古山 彩花 ・「ユニバーサル・ピア」スタッフ

〈現地協力者〉

笹川様（箱根町社会福祉協議会）

佐藤様（箱根町観光協会（DMO））

武藤様（箱根在住車椅子ユーザー）

計 9 名

4 実地踏査のレポート

第一日目〈12月16日 土曜日〉

当日は、13時に箱根湯本駅での集合後、箱根登山鉄道を利用して「彫刻の森美術館」へ向かう。その後は路線バスを利用し、宿泊先である星槎大学・箱根キャンパスに移動。

○集合前の昼食等（日清亭）

- 湯本駅下の福祉車両用降車場を利用した。
- 比較的入口の段差が低く、店員さんに手伝っていただき入店できた。
- 今回は車椅子が大きすぎ、入口の開閉の手間を考えると車椅子は外に置き、新井は独歩にて入店。1階席は広く、余裕をもって座れた。
- 西村は1人で湯本駅に到着。早めに着いて予め調べておいた店に入ろうとしたが段差があり、忙しそうな店員さんなどには声をかけられず入店を断念。余裕を持って到着したが昼食を諦めて集合。



（画像出典：<https://www.hakonenavi.jp/spot/1104>）

○箱根湯本駅集合

- 改札横に集合。メンバー紹介、モニターキャンプの趣旨説明。
- 登山鉄道にて次の移動先へ。
- コンコース、改札、また、商店街への移動はエレベーターもあり、人で混んでいる通路はあるものの、段差などの障害物は少なく整備されている。



○箱根登山鉄道

- 車両は3タイプあり、今回は③中間機。
 - ①最新機は段差が低く、乗りやすい。
 - ②旧式は段差が高く、設置するスロープも高くなるため、勢いをつけなくてはいけない。（転倒の危険あり）
 - ③中間機は段差の高さも中間。どの車両が来るかは分からない。



- 車内は登山電車という性質上あまり広くない。向かい合う形の席のため、大人数で乗る場合は乗り口を分けたり、次回以降の便にグループを分けたりして、乗車する可能性がある。
- 障害者手帳の提示で、本人と介助者は料金が半額になりありがたい。ただ、交通系電子マネーの清算は降車時に改札で駅員さんに対応していただくので時間のロスがある。



(箱根登山鉄道車内)

○彫刻の森美術館

- 彫刻森駅下車徒歩4分。坂道が急なので西村の手動車椅子は1人で移動はきつそうであった。介助者が必要。
- 彫刻の森館内はほぼバリアフリーのため、全て車椅子で回ることができた。通常の出口側にエレベーターがあるため、エントランスが若干異なる。
- エントランス後の広場は足場がガタガタのため、車椅子は振動が激しかった。
- 電動車椅子の貸し出しあり。ただし、自走式ではなく、介助者のアシストタイプなので、車椅子ユーザー単独での走行は不可。
- ピカソ館内には2階へ行くためのリフトがあり、係員に声をかけることで利用ができた。また、2階には簡易車椅子が1台あり、2階に上がったあとその車椅子を利用して館内を閲覧することができた。
- 人気のステンドグラスの塔は階段のみで登ることができなかった。車椅子ユーザーはZoomのカメラ機能を使って中の様子を撮影してもらうことで、タブレット越しに中の様子を見てもらうことにした。
- エントランスのエレベーターを出入りのみに使うと、中階の展示場を見逃してしまう可能性があるため注意が必要である。



(彫刻の森 館内・敷地内)

○強羅駅移動（歩道）

- バスや電車の時刻とその後の登山バスの出発時間を考え20分ほどかけて徒歩で移動。
- 歩道が狭く大きめの車椅子は走行に注意。車椅子同士のすれ違いは難しい可能性がある。

○箱根登山バス（強羅駅乗車）

- 始発の停留所だが混んでいた。予めバス会社に連絡をするとバスの待機場所に案内され、乗車と車椅子の固定を余裕もってしてもらうことができた。
- 車椅子1台分の固定の時間は5分程度掛かった。始発の停留所のため余裕を持ってできた対応であった。途中の停留所から乗るにはハードルが高くなる。また、車椅子の固定台数は1台のみとなるため、複数の車椅子の利用者が乗車する場合、座席を使用し、車椅子を折りたたんで置くスペースが必要。場合によっては移乗介助をする必要がある。
- 降車についてはスロープを出してもらいスムーズにできた。

○星槎大学箱根キャンパス

- 停留所から少し離れているため、徒歩と自走で移動した。
- 本館は2階の宿泊所への昇降のためのリフトを使用できる。
- 流星館は全館バリアフリーで、物の配置もゆとりがあり快適に過ごすことができた。
- 2つの浴場にはどちらにもリフトとリフト用の車椅子がついており、介助者の負担が少ない。
- 食堂までの移動は外を歩いてスロープで本館に入る。食堂のテーブルは一部車椅子に合わせ高さ調整ができるものであった。



(右上:流星館宿泊部屋 左:トイレ 中央:本館リフト 右下:流星館大浴場リフト)

○交流会

モニターキャンプに参加出来なかった古山も ZOOM にて参加した。皆で食事をしながら互いの交流と親睦を図った。



(交流会の様子)

第二日目<12月17日 日曜日>

前日の夜に行われた交流会で活動の方針を立て「大涌谷観光組(A班)」と「海賊船組(B班)」に分かれ、実地踏査を行った。それぞれが行きたい場所ややりたい事ができる場所への訪問を重視し、実際のキャンプでも同様のプログラムを実施したいと考える。

○湖尻桃源台港へ(自家用車・福祉車両に車椅子積載)

箱根町社会福祉協議会様の福祉車両を移動に使わせていただく。新井が車椅子ごと乗車。車椅子の固定する幅が狭く、乗車できる大きさの確認が必要と感じた。

- 両班とも桃源台港から出発であったので、港から徒歩2分ぐらいのところにある展望台に行った。港からの経路は、歩道も整備されていて車椅子でも通りやすい。ただ歩道の幅が狭く余裕がないため通るのに気をつける必要がある。
- 展望台はスロープで上がれ、ある程度スペースがあるため全体集合写真のポイントとしても活用できる。



<A班>

行程 桃源台～大涌谷～忍者カフェ～箱根駅伝記念館

メンバー 新井 初鹿（強羅にて池谷・笹川さんと合流）

○大涌谷へ向かうロープウェイ

- ロープウェイのコンコースは比較的フラットであり乗車は難なく行えた。また乗車前にロープウェイのスピードを遅くしていただいたので、恐怖感も感じずに乗ることができた。
- ロープウェイ内は真ん中に腹向かいの座席があり、車椅子2・3台が搭乗できる。配置を考えておかないと乗り切らないので注意する。
- 降車の時も乗車時と同様にスピードを遅くしてもらえたので降りやすかった。



○大涌谷

- 大涌谷の売店に入ろうとしたが、閑散期とはいえ日曜日ということもあり、店内は混んでいてとても車椅子では商品を見ることはできなかった。仕方なくここでは買いたいものを介助者（初鹿）に頼み、新井は外で待つことにした。
→車椅子利用者が多い当事業が大涌谷を利用するには、時期や時間帯の検討が必要。
- 昼食も同様に混み合っただけで店内に入れなかったため、池谷と合流する強羅にて取ることにした。
- ジオミュージアムは車椅子での利用が可能。

○強羅駅周辺の飲食店視察



- 強羅駅では先に着いていた池谷が昼食先候補を探した。車椅子利用を想定して状況を確認する。候補と結果は次の通りである。
 - ・手打ちそば春本 入口はやや急だがスロープあり。
 - ・銀かつ亭田村 入口に2段の段差。新館は比較的入り易そうであった。
 - ・箱根そば五代福庵 入口横にスロープはあるが、看板設置のためどける必要あり。
 - ・ラーメン餃子山ろく 入口に高めの段差あり。
 - ・Studio Cafe SHIMA 入口に段差あり。
 - ・箱根の森パンケーキ 入口に低めの段差あり。
 - ・忍者カフェ 裏から回れば段差なし。駅に近い。外席あり。
- 強羅は坂道が多く、ほとんどの店舗が駅前より少し裏に入った坂道に面して立地しており、段差が大きいところがある。新井は歩行ができるため、どの店でもよかったが、忍者カフェに入ることにした。ケーブルカーからも見える店で合流にはわかりやすかった。「ござる口調」で話す忍者コンセプトのお店。食事メニューは豚汁定食やチャーハン、パスタ、ピザなどが売っていた。

○強羅駅に向かうロープウェイ・登山ケーブルカー

- ケーブルカーの乗車もコンコースからの乗車はスムーズであったが、強羅駅での降車がやや危険であった。駅員さんに手伝っていただき降車したが、下ろすときに駅員さんの足が電動車椅子の車輪の下敷きになっていた。改善の提案は数年前から提出しているがなかなか進まない事情があるとのこと。



○箱根駅伝ミュージアム

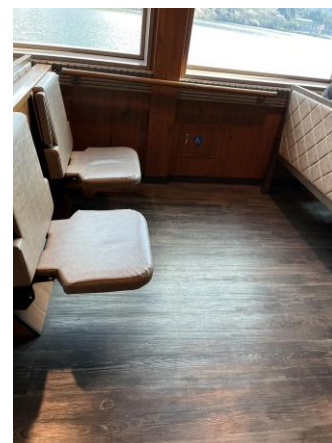
- 車での移動はスムーズにできた。ミュージアム前は身障者車両専用の車スペースがありアクセスしやすい。
- ガラス張りの入口はやや狭いので大きめの車椅子は注意が必要。
- 中はスロープがあり、道幅も広く、内容も充実している。



<B班>

行程 桃源台~遊覧船にて箱根町港~箱根神社・箱根町港周辺
~箱根関所
メンバー 西村 薄井父娘 DMO 佐藤さん

○遊覧船（至箱根町港）



- 乗船はスロープ不使用。入口の段差が多少あるがスムーズに乗船。乗船時は優先して先頭で案内。下船時段差が大きいためスロープを使用。
- 船内客席では車椅子スペースあり。複数人車椅子が乗船する場合は分かれて、車椅子スペースにそれぞれ分散することが必要。
- 船内にエレベーターあり、甲板にも出ることができる。

○箱根神社



- 箱根神社へのアクセスは港から徒歩でのアクセスも可能だが、坂道のため車両での移動の方がおすすめ。駐車場には車椅子用のスペースや多目的トイレも完備されている。
- 駐車場から本殿まではエレベーターが設置されている。しかし、エレベーターの案内板や表示がないため、分かりづらい。ホームページへの掲載や看板の設置など改善が必要。
- 湖畔の鳥居は混んでいた。ここへは介助者が2人いることで脇道から近くまで行くことができた。急坂なため介助者は力があり、車椅子のサポートに慣れていないと難しい。
- 昼食は「俺のうどん」。店内への段差が少なく、店内はイス・テーブル席。イスは固定式ではないので、イスをずらして車いすのままテーブルにも近づけられる。

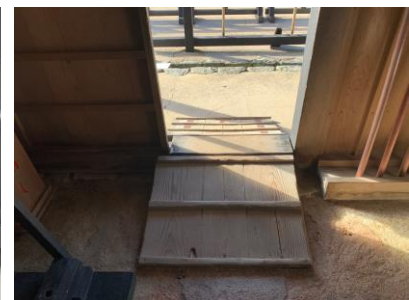


○箱根神社周辺

- 箱根神社周辺は店によっては入れないが、段差の少ない寄木細工屋（しめぎ）に入店。車椅子でも余裕のある通路幅であったが、入口の幅が狭いため、車椅子のサイズによっては入れない可能性がある。



○箱根関所



- 基本的に段差なく施設内を楽しめる。（高台など階段しかない場所も一部あり）一部、高い敷居を越えるために設置されている傾斜路には梁（はり）がついており、一見スロープのようにになっているが車椅子での乗り越えは困難であった。

○箱根町役場食堂

今回、箱根町社会福祉協議会様の計らいにより、振り返りの場所として箱根町役場の食堂で振り返りを行わせていただいた。

5 実地踏査を経ての考察

〈交通機関及び移動手段〉

- 自然が多く、山の中である箱根において、これだけ車椅子の方でも観光しやすく交通機関が整備され、その職員さんも対応が柔軟にできる場所は素晴らしいと感じた。
- ロープウェイ、遊覧船、登山鉄道、ケーブルカーについては複数人での使用の場合席が離れることが想定され、混雑に多少影響されることはあるものの、問題なく利用できる。
- 登山バスに関しては、車椅子 2 台以上の移動途中停留所乗車は、乗車客の混み具合によっては乗車を見送らなければならない可能性がある。今回のように始発での利用を起点にするか、予めバス会社への連絡が有効である。
- 福祉車両は、箱根町社会福祉協議会、星槎大学に 1 台ずつある。しかし、福祉車両の場合、一般車椅子などでの乗車はできるが、大きめの車椅子や電動車椅子など形状によっては乗車することができないことがわかった。一般車両の座席への乗降が可能な場合、ハイエースやワンボックスカーなどを利用することも有効である。

以上のことから事業本番における移動については、福祉車両と公共交通機関での移動を基本にしながらも、バスでの利用時には始発停留所を起点にしたり、バス会社への連絡を用いたりしながらの補助的な使用が望まれる。また、大人数での搭乗はどの交通手段でも難しいため、バラバラにルートを選択しての集合か、貸切バスを用いての集団移動が考えられる。地元の福祉タクシー・リハビリテーション病院などの連携も今後考えていく必要がある。

〈宿泊地（星槎大学箱根キャンパス流星館 他）〉

○星槎大学箱根キャンパス流星館

- バリアフリー環境が整っており、また、職員も障がい者への理解が浸透しているので、ここを拠点としての活動は障がい者メンバーが中心のプログラムには有効である。
- 浴室にはリフトが備え付けられており、比較的重度の参加者も受け入れてのキャンプも可能である。
- 今回は宿泊・食事がメインの利用であったが、各種教室の利用やスポーツ施設を利用したプログラム、暖かい時期であればバーベキューコンロを使つての屋外活動なども今後検討していきたい。
- 場所としては公共交通機関では登山バス、もしくは高速バスでしかアクセスできないことと、比較的近い停留所への本数が少ないことが不便だと言える。貸切バスをレンタルすることも含めて、ここを拠点とする場合は集合が課題となるので、その時のテーマと絡めて入念に計画することが必要となる。

○温泉旅館みたけ

- 運営メンバー池谷の所属する旅館のため、柔軟な対応が可能。
- 玄関には一段段差あり（スロープの設置なし）
- 1階フロアには4室と食事場、ロビー、プレイルームがある。部屋の入口には段差あり。
- 浴室は大浴場、貸切風呂共に地下1階にある。貸切風呂のみ階段昇降のリフトあり。
ただし階下の露天風呂への通路には段差あり。
- ボードゲーム 600 種をプログラムとして活用することも可能。
- 猫がいるためアレルギーの参加者は注意が必要。
- 館内は土足禁止のため、玄関から車椅子のタイヤを拭く必要がある

（館内車椅子は 2 台ある。）

○その他の宿泊施設

- その他の宿泊施設の候補としては、まだ検討できていないため、キャンプの目的によっては開拓していく必要も今後出てくると考えられる。

以上のことから、星槎大学の利用を中心にしながらも、テーマや目的によって温泉旅館みたく、その他の宿泊施設も今後柔軟に利用できるようにしていく。

〈観光地・観光施設〉

- 多くの施設が車椅子での利用もしやすい作りとなっており、車椅子ユーザーも満足できると感じた。
- 箱根神社でも境内や湖畔の鳥居まで移動できるということは新たな発見であった。
- 多少車椅子での利用が困難な場所もあるが、今回のステンドグラスの塔の Zoom 観覧など、その場で解決する手段も考えられる。むしろ全てが揃っているわけではなくて当たり前なので、その状況をメンバーと協力してどう打開していくかがこのキャンプの狙いと一致するのではないか。

〈飲食店・商店など〉

- 歩道が狭く、段差もあるところが多いため、メンバーの使用する車椅子の形状や障害の歩行状況によっては下調べが必要な場合も出てくる。
- 商店に入るにもそれなりの介助技術がいる。もしくは店員さんなどのサポートが必要になる。
- 混雑時は歩道の通行や、商店内に入ることも困難になる。こうした課題もその時の課題解決体験になると同時に、障壁が高すぎることに 대해서는 時期や時間を変えるなどして回避できるようにしていく。
- 飲食店に関しては、食生活を行うプログラム上重要であるので、
 - ①時間を外す
 - ②混雑する人気店を外す
 - ③事前予約をするなどの対策が必要である。

6 モニターキャンプの振り返りと私たちが思うこと

今回のモニターキャンプを終えた後、事務局・実行委員会で振り返りを行いました。私たちは、障がい当事者と障がい福祉に精通した者、また、それぞれの職種に携わったメンバーで構成しているため、様々な視点からこのキャンプ事業に対する意見が話されました。

〈人と人との繋がりを大切に〉

これはステップアップキャンプの大事なテーマであり、この理念の実現を忘れずに目指していきたいです。

キャンプ活動は、家族以外の他人と一緒に過ごすことで、寝る時や食事をする時、さらにはお風呂に入る時まで、様々な体験を通じて成長する貴重な機会です。健常者と障がい者が共に過ごす場合は、さらに意義深いものとなります。上下関係を超越、介助者と被介助者、お世話をする側とされる側といった枠組みを超越して、障がい者と健常者が共に生活する場を提供することで、人としての絆を深めることができます。

〈人が変.われるきっかけとなる場にする〉

日常とは違う空間と、良好な繋がりのある関係の中では、今までとは違った自分の姿に出会うことができます。普段はチャレンジしないことにも積極的にチャレンジしたり、それを同じ場にいる仲間からフィードバックされたりすることで、新たな自分に気づき、成長していくこともキャンプ活動の醍醐味です。

運営メンバーに入っている障がい当事者は、3 人とも子どもの頃にキャンプ活動に参加してきました。自然の中で4泊5日という時間を同世代の障がい者、健常者と過ごして、様々なことにチャレンジしてきました。その様な経験を通し活動的に日々を過ごしています。NPO 団体を立ち上げてその代表をしたり、ディスクゴルフのジャパンオープンを見るために自分で介助者や宿泊施設、移動手段を手配したり、24 時間介助者のサポートを受けて一人暮らしを始めたりといったことです。

また、担当していた利用者さんが引きこもりがちな生活を送っていましたが、ライブイベントに参加することを目指し、散歩から始めて練習を積み重ね、武道館に行けるまでになった人もいます。

こうした「〇〇したい!」という強い思いがきっかけとなって、人が変わり成長することがあります。ステップアップ事業ではただの旅行ではなく、参加者のそうした気持ちを大切にしながら、思いを実現できる環境を整えていきます。ユース世代の障がい当事者にとって成功の経験となる場であるとともに、障がい当事者も健常者もその繋がりからお互いに気づきが生まれ、「自分らしくいていい」という居場所が、自分を変える一歩を踏み出せる場となると思います。

〈箱根 DMO さんと双方に有意義なキャンプ事業の企画をする〉

今回モニターキャンプを行っていく上で、箱根でのネットワークが豊富な DMO さんのご支援がとても強力であることを実感しました。そこで、一つの形としてアイデアとして出てきたことは DMO さんと連携してのキャンプ事業の実施です。障がい当事者を含む運営メンバーが計画立案して、箱根の宿泊施設等の従業員へのバリアフリー研修として実施することも有効ではないかという話が出てきました。以下その利点を記述します。

○DMO、及び宿泊施設側としての利点

●効果の高い研修を実施できる

→実際に障がい当事者と箱根をフィールドとして周ることで、障がい者、介助者視点で箱根を再認識するきっかけとなる。

→障がい当事者と生活を共にするプログラムで、より深く障がい当事者を理解することができる。

●研修内容を委託できる。

●参加して楽しい研修を提案できる。

●他ではない研修の形で、様々な場への PR として活用できる。

○ユニバーサル・ピア側としての利点

●介助ボランティアを確保することができる。

●DMO さんの各種ネットワークでのご協力をいただきやすくなる。

しかし、対話をするうちに以下の課題もあがりました。

●宿泊を伴う研修はハードルが高い ※1泊が限界

●ステップアップキャンプの趣旨とずれてしまう可能性がある

→2泊以上の宿泊を基本としたい（関係構築のため）

→多様な参加者への場としたいという思いがあるが、介助ボランティアの属性が偏ってしまう。

●平日の実施となるため、障がい当事者は休みを取る必要がある

こうしたことから、今後も DMO さんとの関係も考え、例えば事業としてのキャンプと DMO さんとのキャンプはそれぞれで目標を設定して企画をするなどの棲み分けもしていく必要があります。

このような意見を元に再度基本的な考え方を改めこの事業の目的を固めていこうと思っています。

.0

以上のことから、本キャンプの特徴として、色々な参加区分を設けようと考えています。

まだ、整理はしていませんが、例えば、実行委員として参加してもらえれば、企画段階から参加でき、ともに考えたり話し合ったりしながらキャンプ全体に関われます。そういう意味でみんなと新しいコミュニケーションや人とのつながりが生まれ良い社会経験になり、「人は変われる」という本人の自信に繋がると思います。それが新たな「人と人が繋がる」きっかけにもなるのではないかと私たちは考えています。

今回のモニターキャンプでの経験を色々な形で残していく・PR していくこと、また本格実施の時に活かしていく事が、モニターキャンプを経験した私たちにとっての責務だと思っています。

〈参加対象者について〉

このキャンプは、「レスパイト」という意味でも障がいの程度や状態などに関係なく幅広く参加を集りたいですがいきなりは実現できません。

先ず始めはユース世代(18~35 歳程度)に絞るという意見が出ました。金銭面、自己決定などを考えると高校生を受け入れるとリスクが高くなるため、高校生が参加した場合、保護者の同意なども必要になるため、今年度は高校生を含まずに実施していく方向で進めていきます。

〈期間について〉

モニターキャンプは、1泊2日で実施した。「人と人とのつながり」が本キャンプのメインテーマであるため、日数についても検討が必要。

以上のことから、次年度のキャンプについては、初めから私達が思い描く理想のキャンプの開催というよりは、理想のキャンプに向けた第一段階として、より理想に近づけたキャンプを開催していくことになると考えてます。

7 2024 年の動き

①大枠決定・関係機関との打ち合わせ

2024 年には、「第 1 回箱根ステップアップキャンプ」を開催する予定です。1 月から 3 月にかけて、本報告書を取りまとめ、関係機関に提出します。その後、キャンプの大枠を決定し、本キャンプにご協力いただきたい箱根町観光協会様や箱根町社会福祉協議会様との打ち合わせを実施し、連携や協力を深めたいと考えています。

②準備の本格化

4 月からは、開催に向けて本格的な準備に取り組みます。具体的なスケジュールとしては、実際のキャンプ前にボランティアの募集や研修、参加者の募集、さらには関係者との打ち合わせなどを進め、本番のキャンプを順調に開催できるよう努めます。

③資金面の課題解決

さらに、費用面においては、参加者の金銭的な負担軽減のため、助成金の獲得やクラウドファンディングへの挑戦も視野に入れていきます。これらの取り組みを通じて、より多くの支援を得て、イベントを開催できるよう努めます。

④キャンプの実施と振り返り・報告

実際のキャンプでは、参加者や関係者との円滑なコミュニケーションを図りながら、安全面や健康面に十分な配慮を行い、キャンプの理念や目的に沿った運営します。また、キャンプが終了した後は、参加者や関係者との振り返り会を通じて、キャンプの成果や課題を共有し、今後の改善点や活動の方向性について議論します。これらの取り組みを通じて、第一回目のキャンプを成功させ、今後の活動に生かしていきます。

さらに、キャンプの成果や活動の効果をまとめた報告書を作成し、関係機関や支援者に提出します。これによって、キャンプの意義や成果を広く周知し、今後の活動の展開につなげていきます。

8 現地協力者からの感想

今回協力をいただきました、3名の方から感想をいただきましたのでご紹介させていただきます。

○箱根町社会福祉協議会 笹川様

何を目的に動き、どんな形にしていきたいとか？事業の内容を明確にした方が良かったと思いました。

社協の福祉車両では電動の車いすだと幅も高さも余裕がなく対応が難しいと感じました。今後事業実施するのであれば、社協がどのような形で参加出来るのか検討したいと思っています。

福祉教育については、箱根町の住民に何を学んで欲しいのか？何を伝えたいのか？を、明確にさせていただく必要があるかと思います。（新井の質問に対してのご回答）

最後に、誰にでもやさしい箱根町を実現するためにも、今回の取り組みや、今後取り組みもとされていることは必要だと感じますが、興味、関心を持ってもらえるような企画を考えて、発信して行くことが必要だと思いました。

○箱根観光協会（DMO） 佐藤様

<今回参加してみたの感想>

●天下の剣と言われる箱根と車いすの相性は最悪と思われがちだが意外に行ける場所は多いと感じた。

●バスに乗る時、機転を利かせてくれて（待機場所からの事前乗車）OPとして常にそのようになってくれたら利用しやすい。

<今後の企画についての期待>

●温泉に入る。

●アクティビティへの参加（ボートなど）

●宿泊施設の利用

⇒これらをPRし広げる。（箱根町観光協会ユニバーサルツーリズム HPにて記載）

<課題>

●登山電車の旧タイプにあたると車いすでの乗車はより厳しくなる（満足度が下がる）

●電動車椅子貸出が極端に少ない

●入浴介助

<箱根の取組>

●2024年3月にユニバーサルツーリズム HPの完成

●バリアフリー冊子の作成と拡張

○箱根町車椅子ユーザー 武藤様

<ボランティア募集の課題>

DMO の佐藤さんから提案のあった研修の一環にするという案、無作為に募集をかけるよりはいいような気がします。

DMO を絡めて、いろんな案を出しつつ検討していかなければいけない点がある点がありますが、

箱根に限らずではありますオーバーツーリズムの問題であったり、単純な人手不足などの問題も抱えていると思います。

案として出ていた研修の一環とするというのはいいと思いますが、半強制的となれば対応してもらえるのかな？という一抹の不安はあるかなと。

<箱根町内の企業側の本気度問題>

ここ数年、DMOの企画でバリアフリールームとうたわれている客室に車いすユーザーが本当に泊まれるのか！？を検証するという話があったのですが、その趣旨を伝えると・・・といった感じで実際に私が宿泊に行けたのは2か所でした。

箱根町社協と関わる機会がありますが、正直、箱根町やDMOが考えているほど、現場（観光業の方々）はのってないんじゃないかなと思うところもあります。

ボランティア募集の課題と通ずるところがありますが、ちょっと心配です。

<ボランティアの力量問題>

研修の一環としてボランティア問題がクリアになったと仮定しての話になりますが、実際に募集をかけて参加者を募ったとして・・・障害の重症度によっては、ボランティアさんの力量がだいぶ重要になるのではないかな？と思いました。

同じ障害者、車いすユーザーといっても、重症度が高ければ高いほど、慣れた方が一緒でないとはむずかしいんじゃないかと思いました。

上にも少し書きましたが、研修の一環としたとしても、人手不足問題を抱えた中で、事前の研修（座学的なもの）まで受ける時間を割いてくれるとも思えないんですね。

そこはその企業側（ホテル・旅館など）の本気度にも関わってくるのかな？

皆様 ご感想を頂きありがとうございました。

まだまだ、モニターキャンプの段階であり不足している点が多かったと感じています。

武藤様から頂いた「ボランティアの力量問題」に関しては研修や経験者を割り当ててのグループ編成によって対応するなど、今後検討していきます。

9 謝辞

最後になりましたが、このモニターキャンプはたくさんの方からご支援・ご協力をいただきありがとうございました。そのどれか一つでも欠けていたら、キャンプの成功はなかったのではないかと感じています。

今回の経験をもとに、より良い「箱根ステップアップキャンプ」を作っていこうと思います。

<星槎大学・箱根キャンパス様>

キャンプの宿泊の拠点としてバリアフリー宿泊所の「流星館」をお貸しくださいました。このバリアフリー宿泊所「流星館」を知ったことが私達が思う「新しい形のキャンプ」を始めていくきっかけとなりました。

モニターキャンプということで、料金設定のご相談から、何をやる事業なのかもうまく伝えられていない中でも、宿泊手続きの事務連絡等のやり取りを何度もさせていただき、ありがとうございました。

キャンプ期間中は、お風呂場や2階へのリフトを使わせていただき大助かりました。施設内を案内していただいたり、懇親会の差し入れまでしてくださったり、様々な面で大変

お世話になりました。

本格実施前に、実際に宿泊させていただいたことで、自分達が目でいろいろ確認することができました。想像した以上に流星館は障がいがある方も使いやすく生活しやすいということを実感する事ができました。

この経験をもとにみんなで、「箱根ステップアップキャンプ」流星館を拠点としてどう展開していけば良いのか、今後考えていければと思っています。

<箱根町社会福祉協議会様>

福祉車両を貸していただいたことで、スムーズに活動ができました。

また、今回ご挨拶が出来たこと、本事業のボランティア募集や地域の理解は欠かせないと思っており、両方のパイプに強い社会福祉協議会様と繋がることは、大きな収穫だと思っています。

<箱根観光協会様>

今回、私たちの活動に同行して頂けたことにより、私たちのこのキャンプに対する思いを理解していただけた様に感じています。また、「研修」という提案を頂いたことで、私たちの行う事業が箱根地域にとってもお役に立てるとわかり嬉しいです。

前項で書いた通り私達の事業目的とは少し違うかもしれませんが、相互の良点を持ち寄ることで、より良い研修ができるかと思えます。

また、箱根ステップアップキャンプ事業にとっても DMO 様と一緒にできることで、新たな可能性が広がることと思えます。

今回のモニターキャンプを通して、流星館を含め「障がい者に優しい箱根」を再認識しました。この素晴らしい環境で私達が思う箱根ステップアップキャンプを実施していけるよう、実行委員会や関係機関と密に連携を図りながら準備を進めていきます。これからも何かとご協力をお願いすることがあるかもしれませんがよろしくお願いたします。

発行 2024年4月

発行者 ユニバーサル・ピア

箱根ステップアップキャンプ実行委員会

連絡先 新井 丈晴(ユニバーサル・ピア代表)

☎ 090-2901-9029 ✉ arai@yunipia.com